

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

アサリ稚貝の保護手法の検討(横島地先)

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的】

覆砂漁場で発生・消失するアサリ稚貝保護のため、漁業者が自立して活用できる手法として普及している、アサリ稚貝を網袋に入れて保護・育成する広島県大野地区「大野方式網袋採苗」について、管内での新たな保護手法として普及させることを目的に現地実証を行った。なお、今年度は当漁場での網袋内のアサリ稚貝の生残および成長状況について把握することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 網袋の設置

日時：令和2年(2020年)10月15日13:00~15:00

場所：横島西漁場(平成28年(2016年)施工県営覆砂漁場内)

参加者：横島漁協組合員約30名、漁協職員2名、県北水産課1名

内容：袋の面積相当(35cm×48cm)の表砂厚3cmの砂及びアサリ人工稚貝約1,000個体を入れた種籾袋を計100袋作製し、種籾袋にラッセル袋を被せて二重網とした。そして、漁場内(約25m幅)に設置したコンポーズ間にロープを結び、そのロープに袋を結んだ。

(2) 網袋内のアサリ稚貝の調査

月日：令和2年(2020年)11月12日、12月15日、令和3年(2021年)1月16日、2月13日、3月2日、3月15日 計6回

参加者：横島漁協職員1名、水産課1~2名

方法：無作為に選択した4袋について、10cm×10cmの方形枠により枠取りし、現場にて2mm角目でふるい、ふるいに残ったアサリ稚貝を計数した。また、一部の稚貝を持ち帰って、殻長を測定した。

結果：放流後5ヶ月現在の推定個体数は689個/袋、生残率は68.9%であった。平均殻長は13.5mmであり、保護開始時の2.9倍と殻長の成長も確認された。

【成果・活用】

「大野方式網袋採苗」は、現場の砂を網袋に入れる簡単な方法のため、漁業者の作業負担も少ない。また、アサリの保護・育成効果も確認され、現場に導入しやすい手法であり、当漁場でも十分導入が可能であると推測された。一方、袋内に砂泥が堆積し袋が膨満したため、定期的な管理が必要であると考えられた。今後は、「大野方式網袋採苗」により保護したアサリ稚貝を被覆網下へ移植し、アサリの成長等の調査を継続する。

【達成度自己評価】

4 目標(指標)はほぼ達成できた(76~100%)

(様式)

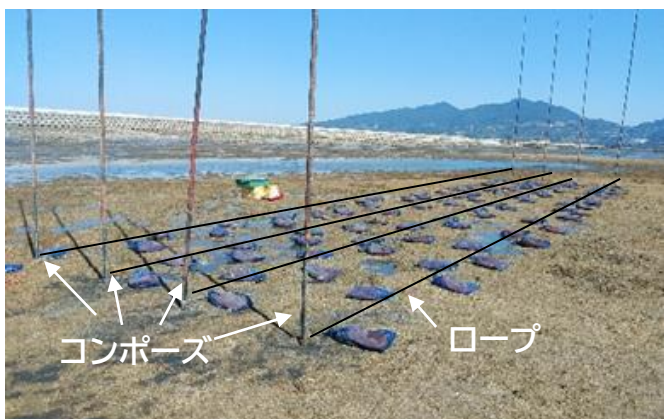
a)



b)



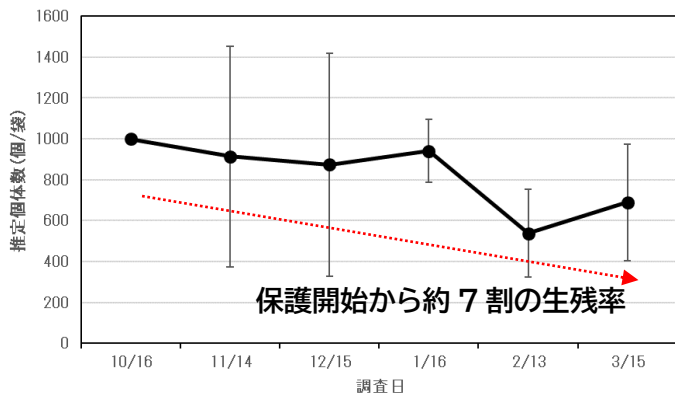
c)



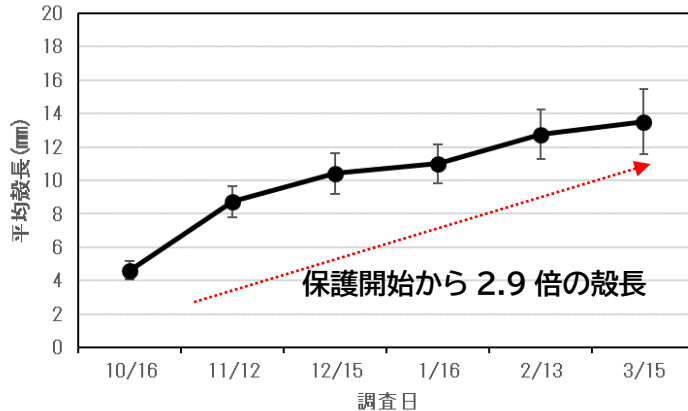
d)



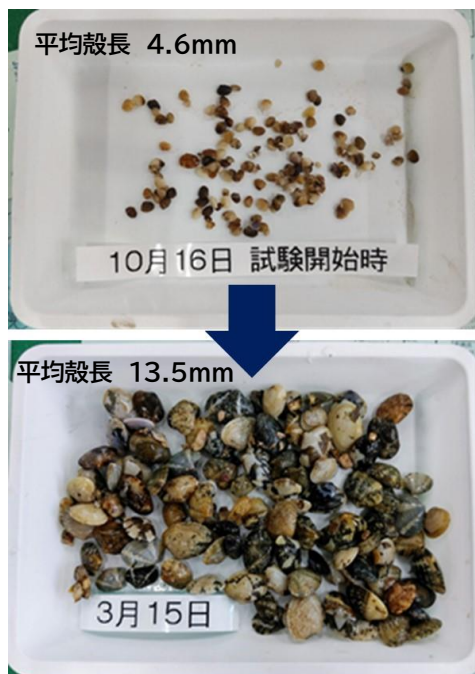
e)



f)



g)



- a) 試験実施場所
- b) 地元漁協組合員による網袋作成
- c) 網袋の設置状況
- d) 網袋内の調査
- e) 網袋内のアサリ稚貝の推定個体数の推移
- f) 網袋内のアサリ稚貝の平均殻長の推移
- g) 試験開始時(平均殻長 4.6mm)および保護中(令和3年(2021年)3月15日)(平均殻長 13.5mm)のアサリ稚貝